

議 事 要 旨

区 分	摘 要
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 緩和ケア部会会議
日 時	令和5年2月6日(月) 19:00~20:15
場 所	Web会議
出 席 者	西村会長、川人部会長、寺嶋副部会長 青井委員、奥村委員(徳島大学病院) 片岡委員(県立中央病院)、安藤委員(県立三好病院) 石倉委員、町田委員(徳島赤十字病院) 多田委員(徳島市民病院)、米川委員(患者会)、岩下委員(県薬剤師会) 延委員(吉野川医療センター)、水田委員(県立海部病院) 林委員(県看護協会)、荒瀬委員(近藤内科病院)、鎌村委員(徳島県保健福祉部) 豊田委員、中谷委員(県医師会)、上田委員(県歯科医師会) 位頭委員(徳島県介護支援専門員協会)、
欠 席 者	山村委員(徳島県鳴門病院)、藤原委員(阿波病院)
陪 席	徳島大学病院：高田医師、横田副看護部長、尾形看護師長、 安部医事課患者支援係長、宮越技術補佐員 徳島県保健福祉部：竹谷氏 徳島市民病院 徳島赤十字病院：高木氏 徳島県立三好病院：菅原氏 吉野川医療センター：河南医師
議 題	<p>川人部会長の進行のもと、徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会がWeb開催された。</p> <p>西村徳島県がん診療連携協議会会長から、緩和ケア部会参加へのお礼の挨拶があった。</p> <p>【報告事項】</p> <p>○都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会報告</p> <p>川人部会長から、令和4年12月9日に国立がん研究センターで開催された「令和4年度第10回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会」について、別紙資料に基づき次のとおり報告があった。議事次第のとおりに当日はWeb開催された。厚生労働省健康局がん・疾病対策課 加賀谷裕介様より第4期がん対策推進基本計画案について詳細な説明があった。①第4期がん対策推進基本計画案が仕上がり、令和5年3月頃に閣議決定予定である。②各分野に記載すべき事項の考え方(案)を見直した。③全体目標は「誰もががんとともに自分らしく生きられるよう、全ての国民でがんの克服を目指す」である。④診断時から一貫して</p>

行われる体制の整備を推進する⑤在宅を含めた地域における緩和ケア提供体制の整備を推進する。⑥緩和ケアに関する正しい知識の普及啓発を引き続き推進する。⑦入院だけでなく外来等における緩和ケアの充実に向け、専門的な人材配置。⑧緩和ケアチームにより提供されるケアの質の向上。以上のような内容から、現状・課題として拠点病院等と地域の医療機関とが連携して相談支援、緩和ケア、セカンドオピニオン等の取組を推進し、積極的な患者や家族等への支援を実践することが必要である。関係施設間の連携・調整を行う「地域緩和ケア連携調整員」を育成。取り組むべき施策は、拠点病院等を中心とした施設間の連携・調整を担う者の育成に引き続き取り組む。

川人部会長から、事前アンケート調査結果の報告があった。その他、静岡県立がんセンターから診断時からの緩和ケア提供体制、亀田総合病院から院外患者への外来緩和ケア提供体制、がん研究会有明病院・聖隷三方原病院から難治性がん疼痛に対する神経ブロックの地域連携体制、埼玉医科大学総合医療センターから緩和的放射線療法の実施体制、千葉県がんセンターから介護施設との連携体制の整備についての報告があった。詳細についてはホームページを参照いただきたいとの報告があった。

(都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会資料については
https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/p_care/shiryu10/index.html (参照))

○各病院の現状報告

各委員から別紙資料に基づき各施設の現状報告があった。

(徳島大学病院 奥村委員)

別紙配布資料参照：緩和ケアチームの活動は、資料を参照していただきたい。今年度、4月から12月までの期間で、緩和ケアチームへの新規依頼数は102件で毎月10件程度の依頼があり、血液内科、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、消化器外科、泌尿器科からの依頼が多い。緩和ケア診療加算159件、延べ患者数743件と月50～80件程度チームで介入も行っている。苦痛のスクリーニングシートは379件となっており昨年度より件数が減少している。緩和ケア外来数は54件、緩和ケアチーム介入の口腔ケア患者数は101件であったとの報告があった。

(徳島赤十字病院 町田委員)

別紙配布資料参照：当院での2022年4月～12月の緩和ケアチーム新規依頼数は68件と毎年同じ程度であり、依頼診療科は消化器内科、消化器外科、血液内科からである。緩和ケア診療加算件数については199件となっている。緩和ケア外来数は今年度算定していない。苦痛のスクリーニングシートについて以前は外来メインであったが近年は病棟が多くなっ

ている。当院の特徴としては末期心不全の患者さんに対して緩和ケアを行っており、診療加算も算定しているとの報告があった。

(徳島県立中央病院 片岡委員)

別紙配布資料参照：2022年4月～12月の緩和ケアチーム新規依頼数は112件で月10件程度である。外科、呼吸器内科、整形外科、消化器内科、泌尿器科からの依頼が多い。緩和ケア診療加算件数973件となっており、苦痛のスクリーニングシートについては、1301件となっている。緩和ケア外来数168件、介入の口腔ケア入院患者数は43件、退院後連携は5件となっている。その他、取り組んでいることは個別栄養食事指導管理加算が97件、心不全カンファレンスは98件との報告があった。

(徳島市民病院 多田委員)

別紙配布資料参照：2022年4月～12月の緩和ケアチーム新規依頼数は51件と少し減少している。緩和ケアチームへの新規依頼が少し減少している。緩和ケア診療加算の算定について資料図のように昨年11月より減少している。これは、条件を厳しくしており、現在も少ない状況である。苦痛のスクリーニングシートについても減少傾向である。口腔ケアについては、1件であるが実際は介入をしていただいているためそれ以上に件数はあるはずであるとの報告があった。

(徳島県立三好病院 安藤委員)

別紙配布資料参照：当院での2022年4月～12月の緩和ケアチーム新規依頼数は52件、依頼診療科は消化器内科、呼吸器内科、外科、緩和ケア内科であった。緩和ケア診療加算は75件、緩和ケア外来265件である。苦痛のスクリーニングシートは1172件となっている。緩和ケアチーム介入の口腔ケア患者はいないとの報告があった。

(阿南医療センター 寺嶋部会長)

当院の緩和ケアチームは、緩和ケアチームへの新規依頼は来ているが緩和ケア診療加算の算定に必要な精神科医が在籍していないため算定していない。しかし、吉野川医療センターは算定が出来ているようであるため、寺嶋医師が精神担当として行えるよう検討中である。苦痛のスクリーニングシートは少しであるが行っている。緩和ケア外来は月・木・金曜日に行っている。緩和ケアチーム介入の口腔ケアについては徳島県歯科医師会の歯科衛生士がラウンドに同行していただいているとの報告があった。

(近藤内科病院 荒瀬委員) (注：統計は年度でなく年間)

別紙配布資料参照：当院の2022年/2021年/2020年/2019年の実績について病棟稼働率は81.6/82.6/82.2/86%とそれほど変わっていない。平均在院日数は33.5/31.6/33.4/44.4日

とコロナ禍前よりは少し日数が短くなっている。新規入院患者数 169/189/180/157 人と増加。部位に関しては肺がん患者が多い。紹介元はがん診療連携拠点病院からが多い。新規退院患者数、死亡退院数は昨年より減少している。厳しい面会制限のため在宅療養を選択する方が増えたと考えられる。感染予防のために面会制限をせざるを得ず、感染状況に応じて予防対策を変更している（3親等以内、PCR陰性の場合：面会は1時間、1日1回2名まで）、看取り期にはPCR陰性で1名付き添って、他は面会で対応、必要時は抗原検査、PCRを院内で実施しているが本日、面会制限が少し緩和されているとの報告があった。

（徳島県立海部病院 水田委員）

当院では、緩和ケアチームの取組と現状報告として月に1回緩和ケアチームで活動を行っている。対象患者へのラウンドと勉強会を実施している。ラウンドの対象者はオピオイドの使用患者や訪問看護導入予定患者、緩和ケアの合同カンファレンスに参加を行っているとの報告があった。

（吉野川医療センター 延委員(河南医師)）

当院の緩和ケアチーム活動報告として、令和4年度のコンサルテーションは20名(苦痛管理、身体症状、精神症状、退院支援)である。その他、河南医師、延委員が緩和ケアチームの取組について学会発表を行っている。また、令和4年7月に緩和ケア外来を開設した。まだ十分に周知が出来ていない。病棟では緩和ケアチームが活動している。その他の取組として他職種で活動を行っており、病棟ではハートケア食を開始したり、緩和ケアだよりを発行しているとの報告があった。

○緩和ケア研修会報告について

川人部会長から、2022年度開催された緩和ケア研修会の報告があった。

- ①徳島県立中央病院は令和4年6月26日に開催を行った。当日の参加者は17名であった。
- ②徳島大学病院は令和4年7月10日に開催を行った。当日の参加者は17名であった。
- ③徳島赤十字病院は令和4年8月28日に開催を行った。当日の参加者は21名であった。
- ④徳島市民病院は令和4年9月25日に開催を行った。当日の参加者は12名であった。
- ②徳島県立三好病院は令和4年11月13日に開催を行った。当日の参加者は5名であった。

○エルネック研修会報告について

林委員からエルネック研修会の研修報告があった。

- ①令和4年10月29日、11月5日の2日間徳島市民病院でWEB開催を行った。1日目は講義、2日目はグループワークを行った。
- ②募集時期が新型コロナウイルス第7派の時期と重なり参加申込は9名であった。
- ③各病院の指導者の方に講師をお願いした。WEB開催であったため、準備等に苦慮したが

、無事に開催が出来た。

【協議事項】

○来年度の緩和ケア研修会について

川人部会長から、来年度の緩和ケア研修会も今年度通りの順番で開催日を決めていただきたいとの要望があった。

片岡委員から、その予定でお願いしたいが、研修医の医師がレジナビに参加などの予定があり、新型コロナウイルスの影響でまだ具体的にわからないとの意見があった。

【その他】

○緩和ケアの神経ブロックのできる施設について

寺嶋副部会長から、難治性がん疼痛に対する神経ブロックの地域連携体制について都道府県がん診療連携協議会でも議題となっていた。以前はペインクリニック専門医がいる徳島大学病院で行っていたが、現在徳島県内で診療可能な施設はあるのかとの質問があった。

片岡委員から、今年度より徳島大学病院麻酔科から曾我医師が異動されたため、神経ブロック硬膜外チューブを行った事例が1例あった。硬膜外チューブを入れて放射線照射を当院で行った。院内依頼は可能であるが他院からの受入れは難しいのではないかと回答があった。

石倉委員から、当院の麻酔科医も研修を行って来て外来も行っている。院外の受入れについては確認を行いたいとの回答があった。

寺嶋副部会長から、県内で対応を行える施設があることがわかってよかったとの意見があった。

○介護施設の緩和ケア対応について

寺嶋部会長から、千葉県ではホスピス型の老人ホームがある。千葉県が介護スタッフのための「緩和ケアマニュアル」を作成し、ホームページに掲載している。ダウンロードしていただき、内容を見て頂きたい。県南では、がん末期の高齢者の方でも痛みをとり施設に帰っていただいている。第4期がん対策推進基本計画（案）にも、高齢者のがん対策が盛り込まれている。徳島県においても緩和ケア部会が中心になり今後検討していかなければいけない。介護スタッフのための「緩和ケアマニュアル」を確認いただき徳島県も同様の冊子を作成するなどご意見を頂きたいとの要望があった。

中谷委員から、終末期の部屋になるが、緩和ケアスタート時は在宅でも、寝たきり等で家族が介護できなくなると施設に入居となる場合が多い。介護職員もがん患者対応の介護体制は取れないが、人生の終末をみんなで見送ろうとなる。また緩和ケアマニュアルを見

ているが、精神的に寄りそうというのは介護では難しいのではないかとの意見があった。

寺嶋副部長から、麻薬の使用が難しいのではないかとの意見があった。

中谷委員から、痛みのコントロールさえ出来ておれば日常の業務となるとの意見があった。

寺嶋副部長から、施設によってはがん患者の受入れを断られる場合もあり、今後は受け入れていただけるよう周知も行っていきたいとの要望があった。

石倉委員から、専門的な看護師や介護士の人員も必要であり民間の施設で行うのは難しいのではないか。南部医療圏は訪問していただく医師数も少なく県や自治体が協力していただければうまくいくのではないかとの意見があった。

○中小病院の緩和ケアの実態調査について

寺嶋副部長から、中小病院の緩和ケアの実態調査を行うとの意見があったが、徳島県でも行われたのかとの質問があった。

出席委員からは、回答がなかった。

○地域緩和ケア連携調整員研修について

寺嶋副部長から、地域緩和ケア連携調整員研修について研修が行われるのではないかとの質問があった。

宮越事務補佐員から、国立がん研究センター主催で地域緩和ケア連携調整員フォーラムが2023年3月4日（土）13:00～16:00に開催予定である。今年度の地域緩和ケア連携調整員研修の募集は終了した。なお、徳島大学病院では現在までに平成28年度、平成30年度、令和元年度に参加しているとの報告があった。

寺嶋副部長から、他県では多数の施設が参加しているため、是非応募していただきたいとの要望があった。

寺嶋副部長から、徳島県医師会主催(徳島県委託事業)徳島県緩和ケアfollow-up研修会の案内があった。

①令和5年2月26日には「ACPアドバンスケアプランニング」研修会を開催する予定である。

②令和5年3月25日に「重篤な疾患を持つ患者さんとの話し合い」として講師に木澤義之先生を招いてWEB開催を行う予定である。

寺嶋副部長から、徳島県医師会緩和ケア対策小委員会として令和4年度徳島県緩和ケア研修事業として令和5年2月26日にWEB開催にて「新型コロナウイルス感染症のパンデミックにおけるACP」のテーマで開催予定であるとの案内があった。

位頭委員から、毎年県医師会で緩和ケアの研修を行っていただいているため、ケアマネージャーに声をかけて参加をしている。先程の話にもあったが、看取りの方が在宅に移行される方が増えている。

在宅に移行された家族からは、もう少し早く退院できなかつたのか、会話や食事を一緒にできる時期に退院できていればとの声が多くいただいているため、少しでも早めに退院できるようお願いしたい。また、徳島県内に神経ブロックをしていただける医師がいることを知らなかつたため、可能であれば在宅の方にもしていただければありがたいとの要望があつた。

寺嶋副会長から、位頭委員にはインフィールドの指導者講習を受講していただいている。県には厚労省から、インフィールドの話はないのかとの質問があつた。

鎌村委員から、インフィールドについてはコロナ禍で少し遅れている。情報収集に努めたいとの回答があつた。

寺嶋副会長から、毎年5名程度の指導者講習を受講していただきたいとの要望があつた。

川人部会長から、その他ご意見はないかとの要望があつた。

上田委員から、徳島県歯科医師会では徳島市民病院に口腔ケアで訪問診療を行っている。また、医科歯科連携の強化ということで徳島県立病院との連携を深めるということでプロジェクトチームを立ち上げているため、緩和ケアに携わっていきたいとの意見があつた。

米川委員から、各医療関係者が行っているこのような部会会議のまとめなど記録の資料はないのか、件数など報告していただいているが県民にも公表を行わないのかとの質問があつた。

宮越技術補佐員から、徳島県がん診療連携協議会として、緩和ケア部会会議、情報提供-相談支援部会会議、診療連携部会会議、徳島県がん診療連携協議会会議と毎年会議を開催しており、会議開催後に議事要旨を徳島大学病院がん診療連携センターホームページに掲載を行っている。ホームページから入っていただき徳島県がん診療連携協議会のリンクを開けていただくと平成28年度くらいより掲載しているため閲覧いただきたいとの回答があつた。

寺嶋副部会長から、徳島県や徳島がん対策センターなどのホームページに掲載するのがよいのかとの意見があつた。

宮越技術補佐員から、部署が異なるため検討させていただきたいとの要望があつた。

川人部会長から、各病院や施設から取組み、病院から在宅への連携などについて報告や検討をいただいた。本日のオンラインでの徳島県がん診療連携協議会緩和ケア部会開催ならびに参加いただいたお礼と閉会の言葉があり閉会となった。